

週日の説教

金 大烈 神父 2011年6月4日(土)

《私たちの主イエス・キリストによって》

～わたしの名によって何かを父に願うならば、父はお与えになる～

祈る時には必ずしなければならないことが二つあります。

一つは、三位一体の神様をたたえる祈りです。十字架のしるしをして、「父と子と聖霊のみ名によって。アーメン。」と言いますね。カトリック信者の祈りは、誰が、いつ、どんな祈りをする時でも、この十字架のしるしから始めなければなりません。しかし、レストランで周りの人の目を気にしながら、自分の膝の上に小さく十字架のしるしをする人が結構います。そして、それさえしない人もたくさんいます。食前の祈りは、親が子ども達に見せる一番素晴らしい模範です。それにもかかわらず、子ども達にその姿を見せない親がたくさんいます。親が十字架のしるしをする姿を、子ども達は見たことがないという場合もあります。それでは当然、子ども達は教会から離れます。一番基本的なことを守らないのに、子どもに何かを要求するのはおかしいことです。

二つ目は、最後の祈りです。「アーメン」と唱えますね。これは、ほとんどの方が口にしていると思います。しかし、何がそんなに忙しいのか知りませんが、「〇〇をしてください。アーメン。」それで終わりにしてしまっています。「アーメン」の後には、また十字架のしるしをして、「父と子と聖霊の御名によって。アーメン。」と祈るべきです。これはカトリック信者ならば誰でも分かるはずの要理の基本です。

更にもう一つの基本の祈りがあるのですが、皆様がそれを意識しているのかどうか、私は疑問に思っています。祈りの中に必ず入るものがあるのです。それは、「私たちの主イエス・キリストによって。」という祈りです。この言葉はどういう意味でしょうか。今日の福音(ヨハネ 16:23b - 28)でイエス様が、「わたしの名によって何かを父に願うならば、父はお与えになる。」とおっしゃいましたね。「私たちの主イエス・キリストによって。」は、カトリック教会の一番基本的な祈りです。そして、み言葉が根拠になっている祈りです。それなのに、私たちはあまりにも形式的に、癖のように、「私たちの主イエス・キリストによって。アーメン。」と言っていないのでしょうか。しかし、実際にはこの祈りは、一番大切な内容の祈りなのです。必ずどの国の言葉の祈りでも、最後には「私たちの主イエス・キリストによって。」と祈っています。この祈りをする時には、本当に強い心が必要です。「私はイエス様を信じます。聞いてくださるのを信じます。」という強い意志を表す内容の祈りなのです。ですから、習慣的に唱えるのではなく、必ず集中してください。今日のミサでもよく考えてみてください。耳を傾けてください。全ての祈りは、「私たちの主イエス・キリストによって。アーメン。」で終わります。

ありがとうございました。